



# このまちで暮らしている。 私もあなたも。 12月1日は世界エイズデー

(2022年世界エイズデーキャンペーンテーマ)

治療の進歩で、HIVに感染した人が、感染していない人と同じように暮らしていくことが可能になりました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の流行がいま、日常生活に大きな影響を与え、社会的な距離を取ることで人が孤立と孤独に追い込まれることもあります。

どうすれば分断を克服できるのでしょうか。

感染している「私」も、していない「私」も、ともにこの社会で暮らしている。その理解と気遣いが、医学の成果を生かした対策の土台になります。



公益財団法人エイズ予防財団  
Japan Foundation for AIDS Prevention